

高校美術 1 (116-日文・美I-302)

1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
学習指導要領全般	●学習指導要領に示された「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、美術を通して高校生の「感性」を高め、「芸術文化についての理解を深める」ことができるように、幅広い視点から題材を設定した。	●教科書全般
「美術I」の目標との関連	●学習指導要領に示された「美術I」の目標及び内容を踏まえ、高校生の「美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる」とともに「美術文化についての理解」を深めることができるように、適切に題材を選択し、配列した。 ●題材の設定については、中学校美術科の基礎の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。	●教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	●表現題材では、「発想や構想」の手がかりとなるように参考作品を多く示すとともに、制作過程を示して「創造的な技能」も併せて学べるように配慮した。 ●鑑賞題材では、「自然と美術とのかかわり」や「生活や社会を心豊かにする美術の働き」について理解を深められるように作品を精選して示した。 ●我が国の伝統的な美術や諸外国の美術文化について理解し、尊重する態度を養えるように表現と鑑賞相互の関連の中で学習できるように配慮した。	●教科書全般

2 内容の適切度

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	●「美術I」で学ぶべき基礎的な力が確実に身につく、「美術II」「美術III」へと続く発展的な学習の基礎が学べるように題材を設定した。 ●秩序だったレイアウトによって作品の美しさを生かし、紙面に統一感をもたせた。また、4ページ増とし、情報量と内容の充実を図った。 ●図版を1ページ大で示すなどして、対比することによって高校生自身が考え、作品や作家、背景となっている美術文化への理解を深められるように工夫した。	●教科書全般 ●2・3,4・5,10・11, 18～21,24・25, 32・33,36・37, 44・45,60・61
内容の程度、正確性への配慮	●文章は平易で、わかりやすい表現で丁寧に解説した。 ●参考作品には、解説文を付けて作品の理解に役立つように工夫した。 ●日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない美術用語などには、振り仮名を付けるなどして、学習に役立つように配慮した。 ●作品と作家のデータは、作品の理解に役立つように詳しく、正確で、わかりやすい表記をするようにした。 ●掲載作品は、美術の教科書として必要な情報が正しく伝わるように、原作の色みに忠実な印刷を目指した。	●教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	●携帯端末やプロダクトデザイン、現代建築など今日的な内容を積極的に取り上げた。 ●美術イベントなどを通して人間と自然との関係を考え、環境への意識が高まるように配慮した題材を設定した。	●3,51,56・57, 60・61 ●78・79
人権尊重などへの視点	●表現や鑑賞を通して、さまざまな人たちとの共生や社会との関わり、福祉の視点から題材の設定や掲載作品の選択に配慮した。 ●年表の「美術・一般史」の日本の項目について色を変えるだけでなく、文頭に●をつけるなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮した。	●42,56,58 ●73～76
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	●日本美術の題材を設定し、斬新な視点から我が国の美術文化への理解が深まるように工夫した。 ●西洋の美術作品と日本の美術作品を比較することによって、それぞれの作品が生まれた背景としての美術文化への理解が深まるように配慮した。 ●年表では、古代から現代まで日本・東洋と西洋の多様な作品を掲載した。また、解説ページをつけ美術文化の変遷を理解できるように配慮した。	●28～31 ●4・5,18～23, 32・33,36・37, 60・61 ●72～77

3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
基礎・基本の押さえ	●高校生にとって「美術I」で学ぶべき基礎的、基本的事項はしっかりと学習できるように題材を設定し、さらに制作過程を示したり、図を入れるなどして理解が深まるように工夫した。	●12～15,18・19, 34・35,38・39, 41,44～48,50～53
美術への関心・意欲・態度についての配慮	●ファッション、ぱらぱら漫画など今日の高校生が身近に感じられるものや、興味・関心が持てる内容を積極的に取り上げた。 ●写真や図版の選択では、単に優れた作品を羅列するのではなく、高校生の心情に訴えかけるものは何かという観点から選択した。また、我が国の美術館などが所蔵する作品も多数取り上げた。	●3,9,26・27, 62～64,68・69 ●教科書全般
発想や構想の能力への配慮	●「美術I」の「4 内容の取扱い」(3)の内容を踏まえ、デッサンやスケッチ、下絵などを作品とともに示して作者の発想や構想を理解する手がかりとするとともに、発想や構想を練る上でのデッサンやスケッチが有用であることを学べるように配慮した。	●6～9, 12・13,38
創造的な技能を高めるための配慮	●絵画・彫刻では作品の制作過程などを示したり、用具・材料と表現との関わりを示したりして、高校生が表現する際の手がかりとなるように工夫した。	●12～15,34・35, 38・39,41,44～47
鑑賞の能力を高めるための配慮	●作品を1ページ大で示すなどして、作品のよさが実感できるように配慮した。また、さまざまな観点から作品を対比的に示し、比較しながら鑑賞することによって、より作品や作家への理解が深まるように工夫した。	●2～5,10・11, 18～21,24・25, 30～33,36・37, 40,44・45,49, 60～63
他教科や中学校美術科との関連	●題材の設定に当たっては中学校美術科の基礎の上に立ち、高校生の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるようにした。 ●美術史年表は、文化的な背景や歴史の流れから、我が国及び諸外国の美術文化が総合的に理解できるように、一般史を加えるなど工夫した。また、縦書きとし、国語との関連を考え右から左に読む形にした。	●教科書全般 ●73～76

4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特色	該当ページ
印刷	●美術の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で、美しい印刷を心がけた。	●教科書全般
製本	●判型をA4変型判、製本形式を中綴じにすることにより、見開き図版が完全に見えるようにするなど、細部まで使いやすさを追求した。 ●ページ数を4ページ増とした。 ●年表ページは観音開きの折り込みとし、開きやすく見やすいように工夫した。	●教科書全般
安全性について	●印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物油インキを使用した。また、表紙の表面加工にも配慮し、学習に使用するに当たっての安全性に留意した。 ●制作過程を示す場合でも、有毒ガスを吸わないように配慮していることを示すなど、安全への喚起を促す記述を加えた。	●教科書全般 ●41
環境への配慮	●用紙は表紙・本文とも再生紙を使用するなど、環境への配慮を十分にした。	●教科書全般